

初めての韓国旅行はエキサイティングな経験をしました。私にとっては最初で最後の経験かもしれません。

韓国の歴史を学びたいと、常々思っていたので楽しみの旅行でした。韓国の民主主義はどうやって生まれ、現代に受け継がれてきたのか。日本との違いに興味がありましたが、今回はちょっとそれは次回に持ち越し、それ以上にすばらしい体験をさせてもらいました。

韓国での初めての経験をしている時、日本では衆議院選挙の結果が報道されました。その結果は自民党の圧勝。恐れていた結果になりました。これで私たちが懸念していた原発推進へと舵を切る姿勢がハッキリと見えてきたことに、危機感を感じずにはいられませんでした。福島の原発事故を経験した私たちにとっては、加速する政治の流れは非常に重く、やるせなさを感じずにはいられませんでした。

そして、お隣の国も「原発回帰」に進んでいく中、これからは連携することが大事だと、現地の通訳キム・ポニヨさんの協力で、キム・ヨンギ弁護士さんとの対談を企画設定していただきました。

韓国と日本の「原発回帰」する共通の背景は、両国ともさほど変わらないのは、統計や政策決定のプロセスからも裏付けられています。韓国でもムン・ジェイン政権が掲げた脱原発政策を廃棄し、ユ・ソンニョル大統領が新規原発建設を打ち出し、議論不在のまま1か月足らずで2038年までに大型原子炉2基を新設すると簡単に決定していました。さすがにこれはビックリしましたとおっしゃっていました。

日本も他人事ではありません。これから、どんどん再稼働され新規原発を建設していくことでしょう。韓国でもエネルギー政策において民主主義はまだ機能不全のようです。日本は今回「選挙で選ばれた」という免罪符のもと、福島のような被災地の声や反対派の意見は無視されやすい政治状況が作られていく恐れがあります。

隣同士の国が、原発を動かし続けることで、お互いに今まで以上に危険な状況になっていくことは目に見えています。

ヨンギ弁護士には、15年経とうとしている福島の現状を詳しく伝え、原発事故の恐ろしさを知っていただくことができたと思います。これは今後も起こりうる「私たちの未来」現実的な話だという事をわかつていただけたと思います。そして私たちの話をどれだけ韓国の人々に伝えられるか期待したいです。

民主化の進んでいる韓国が、原発に関しては日本と状況が似ているという事実は衝撃でした。韓国は市民の力で政権を動かすことができる民主主義の国ですが、原発に関しては日本との民主化の差以上に、国という存在が原発と切り離せないほど密着していることを認識しました。国のエネルギー政策は市民の声よりも、国の経済効率が優先されています。国境を越え原発が国という枠組みに守られ、市民から切り

離されているという共通の課題を確認できたことは、今後の連携への一歩になれたと思います。

そして次の日、もう一つのエキサイティングな出来事。韓国ソウルで YouTube 配信をライブで経験しました。(撮影に耐えられる画像かどうか心配しつつ)

この日は元原発技術者のキム・ジョンユさんを交え、福島からの鈴木、千葉、郷田の3人がそれぞれの活動内容の中から、「何が起き、何が必要か」を話しました。

私(郷田)は自分の活動の「 Chernobyl Act Japan Version 」という、避難の権利や健康管理を軸とした法整備の重要性を伝えました。原発事故によって、ことごとく人権を無視された福島県民。その苦しみを二度と繰り返さないためにも「 Chernobyl Act Japan Version 」が必要だと伝えました。「 Chernobyl Act Japan Version 」は福島で生きる人たちの命と生活に直結する願いです。そして「原発回帰」の中では必要不可欠なものです。場所は違いますが「子どもたちの未来を守りたい」という願いは共通です。国境を越えて「原発事故後の市民の権利」を共有することが大事だと考えています。これからも「 Chernobyl Act Japan Version 」の実現に向けて、声を上げ続けたいと思います。(郷田みほ)